

高校における実践報告

② 「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成



長崎県立 長崎東高等学校 学びの改革推進部
WWL探究推進室長 鳥居 正洋

1 はじめに

〈ともによき世を創る〉

本校は、長い伝統を有しており、明治17（1884）年に開校した旧制長崎中学校など旧制学校4校を前身としています。旧制長崎中学創立から140年、長崎東高等学校としては76年の歴史を有します。平成15（2003）年には長崎東中学校を併設し、併設型中高一貫教育校となりました。本校には、校訓がありませんが、大切にしている言葉があります。それは、「ともによき世を創る」。旧制長崎中学出身の国文学者である山本健吉氏から贈られた言葉の一節です。長崎東では随所で語られ、生徒が学校生活を送る上での、将来の夢や目標を定める上での、大切な指針となっています。

〈「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成〉

本校は、国の「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」の拠点校として、「『世界の平和と共生』に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成」をテーマに掲げながら、先進的で特色ある教育活動を実施しています。ニューヨーク国連軍縮部やハワイ、ベトナム等への海外フィールドワークや、沖縄や広島等への国内フィールドワークを実施するなど、現地の同世代の若者との交流等を通して、異文化理解や多文化共生などを体感できるプログラムを展開しています。問いを立て、その解決の手立てを考察する「探究的な学び」を基盤とし、国内外の大学や高校、企業等と連携・協働した高度な学びを展開するとともに、海外研修や海外修学旅行、海外留学、留学生との交流などを通じた、多様な文化や価値観を学ぶ

機会を設けています。

2 WWL 事業概要

(1) 学校設定目標の策定（WWL 7）

『「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成』を達成するため、本校ではその人材に必要な資質・能力を、7つの力（WWL 7）として定義し、学校設定目標として位置付けています。「課題発見・解決力」「創造力」「情報分析・活用力」「自己表現力」「協働性」「学ぶ意欲」「地球市民性」の7つです。この力の育成を、探究活動をはじめすべての教育活動を通じて行います。（図1参照）

探究活動はともすれば、手段が目的になりがちです。これはデジタル機器やAIにも同様のことがいえます。これらの媒体はあくまで生徒の成長を促すための手段です。そのことを研修や日々の授業を通じて、教員と生徒ともに共有し、目指すべき力という本質が揺らぐことがないようにしています。

また、このWWL 7については、本校独自に開発したルーブリック（図2参照）にて年度当初と最後に生徒自身で自己評価を行い、自らの力の伸長度を把握して自己理解を深めるとともに、自己肯定感の醸成を図っています。また、外部企業による思考力評価とのクロス分析を行い、生徒の実態把握に用いています。

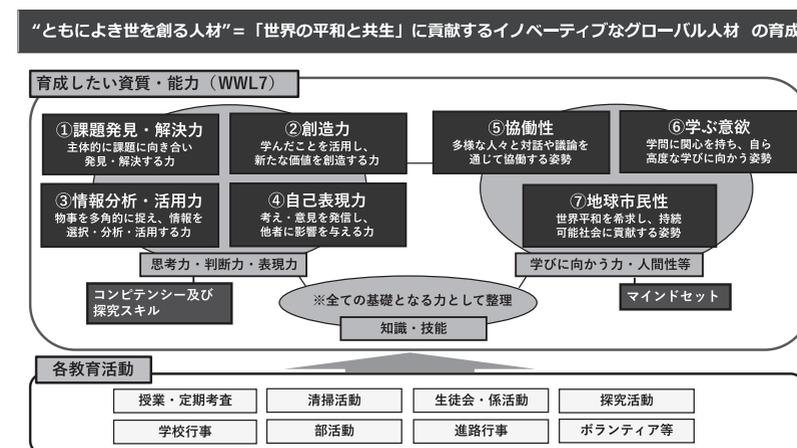


図1 【学校設定目標の設定（探究をはじめとした教育活動の目的を生徒・教師共に明確にする）】

長崎東ルーブリック【令和6年度】

WWL7【学校設定目標】の到達度を自己評価しましょう。

No.	WWL7 【学校設定目標】	定義 ※この項目は、 「評価を促す指標 」です。どんな 評価が正しいか を自分で 考えよう。	評価項目					
			∞ (革新)	S (創造)	A (思考Ⅱ)	B (思考Ⅰ)	C (習得)	
			『創る』	『深める』	『考える』	『知る』		
			知識を踏まえ、根拠 があり創造性ある思 考ができる。	知識を踏まえ、根拠 のある思考がで きる。	知識を踏まえ、思考 ができる。	知識を得ることが できる。		
思考力・判断力・表現力	1	主体的に課題に向き合い発見・解決する力	課題を見つけ、根拠をもとに、他分野との関係性を踏まえた解決策を考へることができる。 ※解決策を講じた際の付加価値(+)αがわかる。	課題を見つけ、根拠をもとに、解決策を考へることができる。	課題を見つけ、解決に向け考へることができる。 ※課題(疑問点)の解決策を自分で調べることができる。	課題を見つめることができる。	※「不思議だな」「何でだろう」と疑問に思ふ。	
	2	学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	知識を活用し、妥当性があり、創造性に富む発想ができる。	知識を活用して、妥当性のある発想ができる。	学んだことを活用して、自分なりの発想ができる。	学んだ知識をなせることができる。	※学んだことを復習できる。	
	3	物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	複数の情報を分析し、それらを相互に関連付けて、自分の意見の根拠として使用できる。 ※複数の情報から、一つの答えを導き出せる。	複数の情報を分析し、自分の意見の根拠として使用できる。	情報を分析し、自分の意見の参考として使用できる。	真偽を意識して情報を読み取ることができる。	※フェイクニュースに惑わされない。	
	4	考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	意見を相手と自分の両方の考えが深まるよう、表現できる。 ※その表現によってお互いが成長するなど、よい効果があるが。	意見を相手に伝えるように工夫して表現できる。 ※相手の状況(状態)を踏まえた表現。	意見を工夫して表現できる。 ※例えば強調するところを大きな声で伝えたり、大きな文字や色分けして書くなど。	意見を表現できる。	※自分の考えを話したり、文字で書いたりなど、向らかの形で示せば○。	
学びに向かう力・人間性等	5	多様な人々と対話や議論を通じて協働する姿勢	他者の良さを引き出しながら、自己の良さを発揮して、和を大事にした発言・行動ができる。	多用な考えを受け止めたうえで、和を大事にした発言ができる。 ※複数の意見を想定。	他者の考えを受け止めたうえで、和を大事にした発言ができる。 ※1対1を想定。	他者の考えを受け止めても、ひとまず聴ける。		
	6	学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢	学ぶ意義や楽しさに自覚め、主体的に学ぶことができる。	将来学びたい学問分野を意識し、主体的に学ぶことができる。	関心と結びつきにくい内容であっても、一層に学ぶことができる。	関心のある内容について、意欲的に取り組める。		
	7	世界平和を希求し、持続可能な社会に貢献する姿勢	多様な人と良好な関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、その解決について思索する姿勢がある。	多様な人と良好な関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、思索する姿勢がある。	意見や考え方が似た人に加え、自分のコミュニティと良好な関係を築くことができる。	意見や考え方が似た人と良好な関係を築くことができる。		
知識・技能		生きて働く知識・技能の習得を目指し、すべての教育活動で身に付けていく						

図2【長崎東ルーブリック】

(2) 探究活動の体系化

本校の教育活動のコアである探究活動は、中1から高3までの6年間の活動を体系化しています。(図3参照)被爆地である本県の小・中・高・特別支援の各種学校では、8月9日を平和登校日として、学校で平和学習を行っており、平和教育を行うことが一般化しています。本校中学校でも平和教育を推進しており、その学びをSDGsへと広げていき、高校の探究での社会課題の設定へとつながっていきます。戦争や核軍縮というテーマをコアに、環境やジェンダーなど、多様な分野による「広義の平和」へとそのテーマを広げていくイメージです。

最終学年である高3では「高校生国際平和会議」を開催し、これまで培ってきた知識や人間力を、国内外の高校生と世界課題について議論するなかで存分に発揮し高め合います。アウトカムを得ることで、高度で深い学びを得るとともに、社会に対する自己の有用性を獲得し、グローバル人材としての自覚を強めていきます。

探究活動の体系化

○各学年で特に高めたい「資質・能力」を学校設定目標(WWL7)から設定。
○長崎ならではの平和学習から、探究活動に至る流れを体系化。

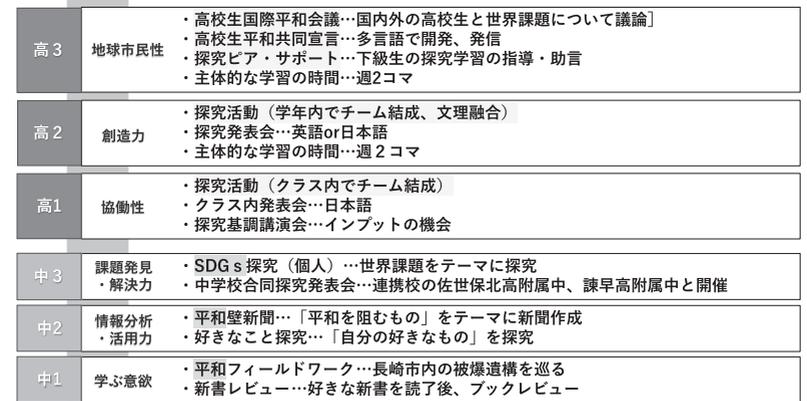


図3【中・高6年間の探究活動を体系化】

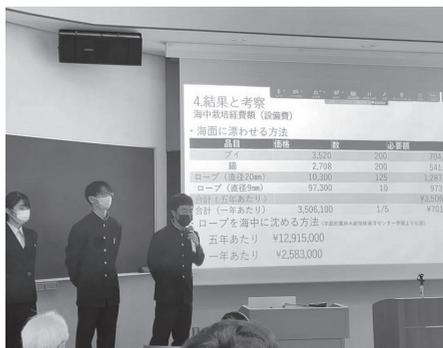
(3) 文理融合型のチーム編成

本校の探究の特徴は、多様性を踏まえた、文理融合でのチーム編成にあります。これは、多様な生徒でチームをつくることで学びの幅を拡大させ、「集知知」の深化を図るものとして行っている取組です。

一例をご紹介します。右の写真は、大阪大学主催の探究の全国大会「国

際公共政策コンファレンス」で本校生徒が発表している様子です。

本チームは、磯焼けによる世界的な藻場の減少に着目し、その造成について解決策を模索します。そのなかで、藻を原料とした畜産飼料を生産しているハワイの企業があることを知ります。その畜産飼料を食すと、牛の暖気からメタンガスが大きく削減されるということを知り、これ



【大阪大学での探究発表】

を長崎県の離島である五島列島で実施できないか、プランニングを行いました。長崎県の離島部、特に五島では牛の畜産が盛んであり、離島の振興の一助にもなるのでは、という価値を見出しました。実際に五島にフィールドワークに行き、畜産農家や五島市役所と協働して藻場を造成できる場所を特定し、収支計画を立て、ビジネスプランを策定しました。

本探究は同発表会で高い評価をいただき、全国2位相当の優秀賞をいただきました。また、本探究内容が着目され、ソーシャルビジネスの生みの親といわれる、ノーベル平和賞受賞者のムハマド＝ユヌス博士から招聘を受け、博士の前で探究発表をおこない、対話会に臨みました。本探究チームは、経済系、環境系、理学系、国際系の進路希望者で結成されたチーム(図4)で

総合的な探究の時間(高2)

【経済系×環境系×理学系×国際系のチーム】

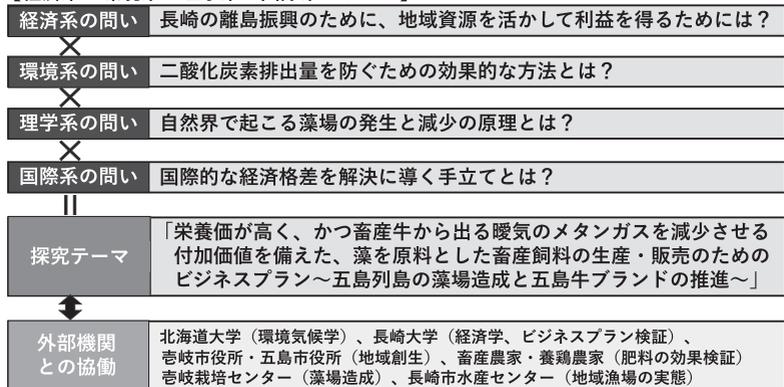


図4 文理融合型チームによる「問い」の設定

あり、文理融合のチームです。「集合知」によって問いが深まり、高度な探究学習へと発展した成功例の一つとなりました。

(4) 国内外フィールドワーク

本校の探究チーム数は、高1・2合わせて140近くになります。先述しましたとおり、生徒たちは探究を進めていく過程で、フィールドワークを広く実施しています。実際の現場に訪れ、自らの学びを具体的な事象と関連させ、探究内容をさらに深めていきます。これまで協働してきた企業、官公庁、NPO、高校、大学等外部機関の数は350以上に上ります。

本校では、全チームが長崎市を中心に実施する定例のフィールドワークに加え、グローバルな環境での多様な学びの機会を創出するべく、特別な国内外フィールドワークを実施しています。令和6年度の実施場所は下記(図5)のとおりです。学年希望者から選抜された生徒で実施しました。

国・地域	対象	時期	内容
ベトナム	高2	10月	長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点での感染症研究、水質調査、現地研究者とのディスカッション 等
アメリカ(ニューヨーク)	高2	3月	国連軍縮部職員訪問、軍縮部・ODA職員「高校生平和と共同宣言」や平和探究について意見交換、グランドゼロ研修 等
アメリカ(ハワイ)	高2	3月	真珠湾遺構調査、ハワイ大学、University Laboratory Schoolとの生徒交流、移民インタビュー、伝統農業体験 等
広島	高2	8月	協働校である広島市立舟入高校との合同平和探究。国連公用語を含む10言語に翻訳した「高校生平和と共同宣言」の作成 等
沖縄	高2 高1	10月	遺骨収集ボランティア体験、ひめゆり研修、ガマ体験、那覇国際高校・沖縄尚学高校との平和交流、米軍兵インタビュー 等
東京(1)	高2 高3	11月	東京大学渡邊研究室訪問、デジタル・AIを活用した新しい平和の伝承法、SFプロ・タイピング研修 等
東京(2)	高2	12月	国連大学での探究発表、キャンパスツアー、アジア開発銀行訪問、特別講義、外国人大学院生との交流 等

図5 【令和6年度 国内外フィールドワーク一覧】

(5) 探究ピア・サポート

探究のノウハウについては、生徒によって次の代へと継承されていきます。その取組が、「探究ピア・サポート」です。本校では、教員によって生徒に対し探究の指導・支援をおこなうのではなく、先輩である上級生が、後輩たち下級生に探究活動全般の指導・支援をおこないます。

質の高い探究を継承していくには、職員間によるノウハウの伝達に頼るのではなく、生徒同士で継承を果たし、探究を学校の文化・風土にすることが効果的であると考えています。特に教職員の異動がある公立校では、

教職員に頼らない教育活動の継承は重要な視点になってくると思います。

(6) 高校生国際平和会議・高校生平和共同宣言

〈高校生国際平和会議〉

最終学年である高3の集大成として、「高校生国際平和会議」を開催しています。初年度となった令和5年度には、国内外の生徒とディスカッションを行い、計19校、1機関、参加生徒1200名の大規模な会議を開催しました。「広義の平和」というテーマから、会議は「共生」「環境」「社会」「経済」の4分野で、英語の部と日本語の部の2部門で実施しました。各テーマについては、生徒たち自身で決定しました。(図6、7)

この国際平和会議は、高1、高2合わせて約150名の生徒による実行委員会を組織し、企画・運営・渉外すべてを生徒自身の手によって行いました。(図8) 運営委員17名を中心に、全員で団結して取り組みました。また、本会議では国連事務次長中満泉様より激励のビデオメッセージをいただきました。

国外	University Laboratory School (ハワイ)、Visser't Hooft Lyceum (オランダ) 上海市甘泉外国語中学 (中国)、上海市洪山中学 (中国)、福建省培元中学 (中国)、Rajini school (タイ)、NPO 法人 Beautiful World (ウクライナ)
長崎県外	南多摩中等教育学校 (東京)、三島北高等学校 (静岡)、国際高等学校 (奈良)、追手門学院大手前高等学校 (大阪)、関西創価高等学校 (大阪)、六甲学院高等学校 (兵庫)、舟入高等学校 (広島)、沖縄尚学高等学校 (沖縄)
長崎県内	創成館高等学校、諫早商業高等学校、大村高等学校、長崎南高等学校、長崎東高等学校

図6 【高校生国際平和会議参加校・機関一覧】

カテゴリ	SDG s	主題
『共生』	10,16,17	英語の部『What is needed to live together in harmony in each culture : 異文化共生の推進』 日本語の部『核の廃絶：世界平和の実現へ』
『環境』	6,7,12,13,14,15	英語の部『What we can do for a sustainable environment : 持続可能な環境』 日本語の部『地球温暖化の防止：温室効果ガス排出量ゼロへ』
『社会』	1,2,3,4,5	英語の部『What we can do to create a diverse society : 多様性ある社会』 日本語の部『ジェンダー平等の実現：すべての女性が幸福になる社会に』
『経済』	8,9,11	英語の部『What is the meaning of work : 「働くこと」の意味』 日本語の部『ディーセントワークの推進：誰もが働く喜びを実感できる社会に』

図7 【高校生国際平和会議テーマ一覧】

高校生国際平和会議

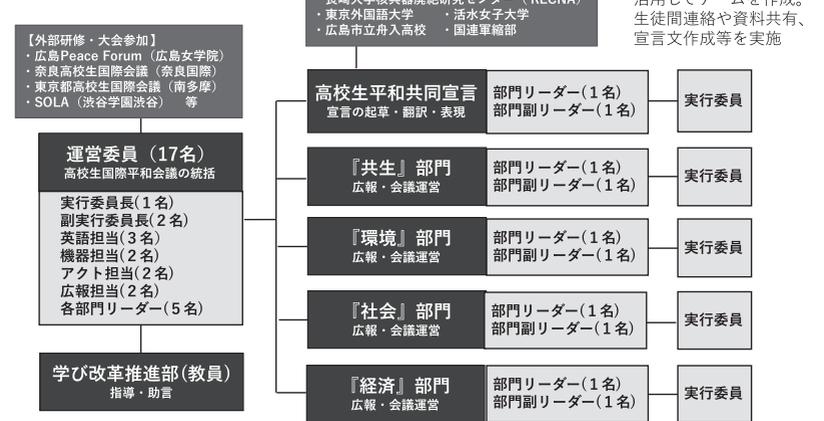


図8 【高校生国際平和会議 実行委員会】

〈高校生平和共同宣言〉

「広義の平和」について、高校生が世界にメッセージを発信するもので、本校の協働校である広島市立舟入高校と本校の生徒が協働し文言を作成し、本会議で発表し大きな反響を得ました。作成過程では中満泉国連事務次長様、またODA本部、国連軍縮部、長崎大学核兵器廃絶センター RECNA、東京外国語大学、JICA等、多様な機関と協働し意見交換を行っています。アラビア語・スペイン語・フランス語・オランダ語・中国語・韓国語・ロシア語・ウクライナ語・英語・日本語の計10言語に翻訳し、現在、国連ホームページへの掲載を進めています。



【高校生平和共同宣言HP】
ぜひご覧ください！

(7) 校内の組織体制

本校では、校長はじめ管理職の強力なリーダーシップのもと、学校全体でプログラムを遂行する体制が構築されています。事業の中核は、私も所属する「学びの改革推進部」です。この部署がコアとなり、各分掌、各教科、また国際科、各学年というふうに、学校組織の協働化を図りながら、事業を進めています。「個の強さ」を活かした「横のつながり」のあるボトムアップ方式で進めているところが、長崎東の組織の強みであると感じています。(図9)

校内の取組体制

- 校長の強力なリーダーシップのもと、学校全体で取り組む体制が構築
- 「個々の強み」を活かした組織体制、「横のつながり」を意識したボトムアップ型の運営が実現

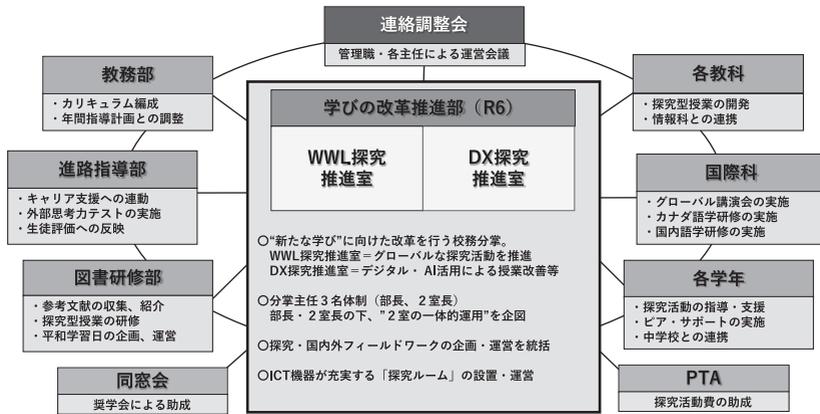


図9 【校内組織】

3 生徒の変容

(1) ルーブリック (自己評価) 結果 ※参考R5年度

自己評価の結果です。冒頭にお示ししたWWL 7を、本校独自に開発したルーブリックを用いて、4段階で評価します。下記はルーブリックの経年変化になります。育成したい7つの力それぞれにおいて、現高2、高3が、1年間でどう伸びたかを表にしたものです。すべての項目が向上していますが、特に協働性の高さが顕著です。(図10)

【自己評価の推移 (4段階評価) 令和5年度 6月 (初期値) →12月 (経過値)】

① 課題発見・解決力	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	1%	5%	12%	16%	S	4%	7%	11%
A	42%	60%	61%	66%	A	45%	47%	55%	61%
B	51%	31%	26%	17%	B	43%	43%	33%	21%
C	6%	4%	1%	1%	C	7%	4%	2%	2%

② 創造力	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	4%	7%	11%	15%	S	9%	11%	25%
A	45%	47%	55%	61%	A	45%	47%	53%	49%
B	43%	43%	33%	21%	B	37%	34%	21%	18%
C	7%	4%	2%	2%	C	9%	8%	1%	3%

③ 情報分析・活用力	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	3%	8%	13%	23%	S	7%	12%	23%
A	41%	50%	59%	53%	A	39%	48%	53%	51%
B	48%	37%	26%	23%	B	44%	33%	22%	21%
C	8%	5%	2%	1%	C	10%	7%	2%	1%

④ 自己表現力	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	8%	12%	16%	18%	S	8%	12%	16%
A	40%	51%	54%	54%	A	42%	31%	27%	25%
B	42%	31%	27%	25%	B	42%	31%	27%	25%
C	10%	6%	3%	3%	C	10%	6%	3%	3%

⑤ 協働性	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	14%	25%	32%	34%	S	14%	25%	32%
A	43%	47%	49%	51%	A	43%	47%	49%	51%
B	36%	24%	17%	14%	B	36%	24%	17%	14%
C	7%	4%	2%	1%	C	7%	4%	2%	1%

⑥ 学ぶ意欲	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	9%	11%	25%	30%	S	9%	11%	25%
A	45%	47%	53%	49%	A	45%	47%	53%	49%
B	37%	34%	21%	18%	B	37%	34%	21%	18%
C	9%	8%	1%	3%	C	9%	8%	1%	3%

⑦ 地球市民性	高1				高2				
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	
	S	7%	12%	23%	27%	S	7%	12%	23%
A	39%	48%	53%	51%	A	39%	48%	53%	51%
B	44%	33%	22%	21%	B	44%	33%	22%	21%
C	10%	7%	2%	1%	C	10%	7%	2%	1%

図10 【ルーブリック経年変化】

※ほぼ全ての項目で伸びが見られる。特に「協働性」や「学ぶ意欲」の高さが顕著である。

(2) GPSテスト (客観評価) 結果 ※参考R5年度

続いて客観評価です。本校では、「GPSテスト」を実施しています。このテストは、ベネッセコーポレーションが行っている思考力テストで、批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力の3つの思考力を計ります。思考力を客観評価できるものとして、本校では生徒の自己評価とクロス分析を行い、生徒評価に活用しています。

令和5年度の特筆すべき成果として、高1の「批判的思考力」、情報を抽出して吟味し、論理的に組み立てて表現する力が過去最高値になったことが挙げられます。特に「論理的に組み立てて表現する力」の伸長が著しく、全国平均と比較しても高いものになっています。探究的な学びを通して、探究基礎力となる思考力が養われていることがうかがえる結果となりました。(図11)

プログラム実施の成果 (客観評価)

【高1の批判的思考力の過年度比】

	高1 批判的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	2%
A	15%	17%	28%	34%	35%	27%	39%	45%
B	72%	68%	68%	64%	57%	56%	51%	47%
C	13%	14%	4%	2%	8%	15%	8%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

※情報を抽出して吟味し、論理的に組み立てて表現する「批判的思考力」が過去最高値。

※特に「論理的に組み立てて表現する力」の伸長が著しく、全国平均と比較しても高い。

※探究的な学びを通して、探究基礎力となる思考力が養われていることがうかがえる。

【R4批判的思考力 細目 長崎東】

	批判的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する
S	0.8%	5.2%	5.2%
A	39.4%	29.3%	20.5%
B	51.4%	36.1%	66.7%
C	8.4%	24.9%	12.9%
D	0.0%	4.4%	0.0%
合計	100%	100%	100%

【R5批判的思考力 細目 長崎東】

	批判的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する
S	1.9%	3.5%	3.5%
A	45.2%	30.1%	42.1%
B	47.1%	35.5%	48.6%
C	5.4%	28.2%	8.9%
D	0.4%	2.7%	0.4%
合計	100%	100%	100%

【R5批判的思考力 細目 全国平均】

	批判的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する
S	1.8%	4.0%	4.0%
A	35.8%	23.5%	32.1%
B	50.7%	35.8%	52.5%
C	11.6%	30.6%	14.8%
D	0.2%	6.2%	0.6%
合計	100%	100%	100%

※「論理的に組み立てて表現する」力については、S評価の設定なし

図11 【GPSテスト結果】

4 終わりに

探究活動をはじめとした本事業の取組で、最も私自身が財産だと感じていることは、「人との出会い」です。協働機関が広がる、ということは、それだけ協働する「人」とのつながりが広がる、ということと同義です。私自身、この事業を担当して尊敬すべき素晴らしい皆様にお会いでき、世界観が広がりました。私ですらこうなのですから、10代の多感な学齢期に、憧れとなる大人と出会えることの感動は計り知れないと思います。教育活動を通してや

りがい、達成感を感じるのは、やはり生徒が大きく成長した時であり、その契機を創り出せる業務に携わることは楽しく、ありがたいことであると思います。

「先取」という言葉がふさわしく、本校は長崎県下でも新しいことをどんどん取り入れ実践する立場にあり、変革を恐れない気風があります。この度、ご縁をいただき、起業教育研究会に関わらせていただきましたが、起業家精神はまさにイノベーティブ、革新的な精神、そして実践が伴うものであると理解しています。そのような先進性溢れる会に参加させていただき、まさに先陣を切ろうとする皆様とのご縁を賜り、私自身ももちろんですが、長崎東にとっても大きな成長の場を与えていただいたと感じています。

この度は貴重な機会を賜り、誠にありがとうございました。今後とも長崎東を何卒よろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

長崎東高等学校 Tel 095-821-4642
WWL探究推進室長 鳥居正洋
torii6949@news.ed.jp



【タイムリーな情報発信】
(左)公式Instagram (右)公式Facebook